ハマスの越境攻撃の衝撃とその余波

イスラエル社会の強硬姿勢を支える 政治文化的背景を読み解く

2023年10月7日に起きたハマスによる越境攻撃はイスラエル建国以来最悪の大参事となった一方で、イスラエル軍によるガザへの空爆と地上侵攻は「ナクバ」(イスラエル建国時のパレスチナ人の虐殺と追放)以来最も多くのパレスチナ人の命を奪い、最悪の人道的危機を生み出して現在に至る。近年のイスラエルの政治的動向を踏まえつつ、ハマスによる越境攻撃がイスラエルと世界のユダヤ人社会にもたらした衝撃とともに、その後に続くイスラエル社会の反応と強硬姿勢を支える政治文化的背景を読み解く。



神戸大学 鶴甲第1キャンパス 国際文化学研究科 学術交流ルームE410



(Wed.) 6 Dec. 2023 16:30 – 18:30

② スピーカー 赤尾光春

国立民族学博物館特任助教。総合研究大学院大学博士後期課程修了(学術博士)。専門はユダヤ文化研究、ロシア・ウクライナ地域研究。共編に『シオニズムの解剖ー現代ユダヤ世界におけるディアスポラとイスラエルの相克』(人文書院、2011年)、『ユダヤ人と自治ー中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡』(岩波書店、2017年)、共訳に『ディアスポラのカーユダヤ文化の今日性をめぐる試論』(ダニエル&ジョナサン・ボヤーリン著、平凡社、2008年)などがある。





^{司会} 小笠原博毅 (神戸大学教授) 主催 | 神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート

共催 | インカルチュラル・スタディーズ学会

お問い合わせ | aleksirius@hawk.kobe-u.ac.jp 黄 柏瀧 (Promis学術研究員)